

公認会計士として働いている今、皆さんにお伝えしたいこと

明治大学商学部商学科／EY 新日本有限責任監査法人 マネージャー

清野恭平（高60）2008年3月卒業

公認会計士について

現在、公認会計士としてEY新日本有限責任監査法人でマネージャーの立場で日々働いています。私が高校生のときには、公認会計士という仕事も、監査法人という組織があることも知らなかったのですが、おそらくこれを読んでいる皆さんにもあまり馴染みのないものではないかと思えます。私のキャリアや公認会計士になろうと考えるまでについてのお話しをする前に、まずは、公認会計士とは、監査法人とは、について簡単に触れたいと思います（ご存知の方は次の見出しまで読み飛ばしてください）。

公認会計士とは、一言でいうと「監査及び会計の専門家」です。知名度は低いものの、医師、弁護士と並ぶいわゆる「三大国家資格」の一つと言われており、公認会計士になるには、マーク式の短答式試験、論述式の論文式試験、実務経験を積んだ後に受ける修了考査の3つの試験に合格する必要があるため、資格取得まで長い道のりになります。

監査という言葉も聞きなれないと思いますが、監査は簡単に言うと、企業が公表している財務書類（1年間の売上や利益等についての情報がまとまった書類。有価証券報告書等）が正しく公表されているかについて、企業から独立した第三者としてチェックする仕事です。ちなみに、この財務書類の監査は公認会計士と監査法人だけが独占して行える業務です。

監査法人は、公認会計士が集まって作る専門家の集団くらいに思っただけであればいいと思います。監査法人には世界的に大手の監査法人が4つあり、4大監査法人やBig4と呼ばれています。こちらも日本ではあまり知名度が高くないですが、世界的にみると「世界で最も魅力的な企業」の上位にランクインするような有名企業ですので、気になる方は調べてみてください。

キャリアについて

大学卒業後のキャリアとしては、大学を卒業した後、2012年4月にEY新日本有限責任監査法人に入所し、初めは銀行や証券会社等の金融機関の監査を行う部署（金融部）に配属され、地方銀行やクレジットカード会社の監査に携わっていました。約5年間金融部で金融機関の監査業務を行った後、部署移動の希望を出し、不動産・建設業の会社を行う部署に異動し、現在は主に不動産会社の監査を行っています。

公認会計士の仕事について

公認会計士は、監査及び会計の専門家ですので、多くの公認会計士は監査業務を行っていますが、監査業務以外にも、税務やコンサルティング等様々な業務を行っている人もいます。働き方も、監査法人で働く人、企業の中で企業内会計士として働く人、独立して事務所を構える人、また、公認会計士の資格を取得すると税理士としての資格要件も満たすため、税理士として働く人もいます。このように公認会計士の資格を持つことでキャリアの幅が広がり、自分でやりたいことを選択できるようになります。

私は監査法人で監査業務を行っていますので、少し業務についてもお話しすると、監査業務は、監査対象となる企業を理解することから始まります。どういう商品売っているのか、

ライバルはどのような企業なのか等の少し調べればわかる情報から、一般的には公表されていないような情報（例えば、会社の役員が会議で何を話しているか、社員の人も知らないような企業買収の話題等）についても、会社経営者に質問することで教えてもらえます。基本的には会計データや書類を見ての仕事になりますが、企業の理解や監査の手続のために、工場や支店等の様々なところに行くこともあります。私が銀行の監査をしていたときは、銀行内の金庫で何十億円という現金を確認したり、不動産会社の監査では、マンションやビルを作って売っているの、実際にマンションを見に行ったりと、ここで書ききれないくらい様々なことを行います。

公認会計士になるまで

そもそも、なぜ公認会計士を目指そうと思ったかについてですが、公認会計士を目指そうと思ったのは、大学1年生のときです。高校生の時には存在すら知りませんでした。

私の高校生活と大学受験というと、勉強は人並みにはやっていましたが、アルバイトに没頭していたことや、「この大学でこれをやりたい」といった明確な目標がなかったこともあり、国公立大学や早慶上智といった大学には合格できず、滑り止めとして受験した明治大学のみ合格という状況でした。ここで明治大学に行くか、浪人して大学受験に再挑戦するかの2つの選択肢がありましたが、「浪人してもう1年大学受験の勉強をするなら大学に入って新しいことを勉強しよう」、「大学生のうちには社会に出ても困らないような資格を取っておこう」と考え、浪人ではなく明治大学に進学することにしました。

明治大学には、国家試験指導センターという組織があり、経理研究所（公認会計士を目指すコース）、法制研究所（司法試験を目指すコース）、行政研究所（各種公務員を目指すコース）という3種類の国家試験の受験支援をしている組織があります。しっかりと勉強するなら組織に所属した方がいいことや、資格を持つことに魅力を感じたこと、法律と数字なら、数字を扱うことが自分に合っていそうとの考えで、経理研究所へ入ることを決めました。入所後から勉強を始め、簿記・会計については初学でしたが、大学1年生の夏には簿記3級に合格、1年生の冬に簿記2級に合格、2年生の夏に簿記1級に合格し、公認会計士コースへ入り、3年生の冬に公認会計士試験の短答式に合格、4年生の夏に公認会計士試験の論文式に合格と、大学在学中に論文式試験まで合格することができました。文章にすると簡単ですが、テニスサークルに入っていましたがほとんど参加することはできず、大学の授業やゼミの活動も最小限にして公認会計士試験の勉強をしていましたので、ほとんど資格試験の勉強をしている4年間でしたが、今思えば、同じ高い目標を持った仲間が大勢いる環境というのは自身の成長に非常に大切だったと思います。立高も同じですが、テストの点数を競ったり、わからないところを教えあったりと、同じ方向を向いている仲間でありライバルのいる環境というのは非常に大切だと思いますので、今の環境や同級生を大切に切磋琢磨してもらえればと思います。

最後に3つのアドバイス

今までのキャリアを振り返ってみると、ところどころに人生を左右するような選択をしなければならなかったと思います。合格した大学に進むか、浪人して別の大学に入るか、大学でサークルやゼミに打ち込むか、資格取得の勉強をするか等、みなさんもこれから人生を左右する選択をしなければならぬときが何度も来ると思います。将来のことはその時にはわからないので、後々後悔しないようにそのときにできること（例えば先生や友人

に相談する、先輩に話を聞いてみる等) や持っている情報をもとに最善の選択をしていって
もらえればきつとうまくいくと思います。

また、社会人に必要なスキルは「英語・会計・パソコン」だと思います。英語とパソコン
については説明するまでもなく重要であることはご理解いただけると思いますが、ぜひ社
会に出るまでに会計についても少し触れてみてください。どこの会社に入っても、会計的な
視点を持っているかいないかでは、物事の見え方が変わってくると思います。公認会計士を
目指せとは言いませんし、今すぐに簿記の勉強をしましょうとも言いませんが、簿記は気軽
に勉強できますので、挑戦してみてください。きっと社会に出ても役に立つと思います。
簿記をやってみて会計に興味を持つようであれば公認会計士を目指してみるのもいいと思
います。会計の専門知識を持っているということは、どこの会社でも重宝されると思います。

最後に、立高の仲間は一生の財産になります。私も立高を卒業して10年以上経ちますが、
クラスメイトと忘年会で集まったり、定期的に数人で飲みに行ったりと付き合いが続いて
います。大学進学に向けた勉強だけでなく行事や部活、遊びと後悔のないように立高生活を
楽しんでもらえればと思います。